



「バランスボール楽しいな」

パフテスト心身障害児(者)を守る会

# 愛の手を

第182号

発行責任者  
 社会福祉法人 パフテスト心身  
 障害児(者)を守る会  
 重症心身障害児施設 久山療  
 育園重症児者医療療育センター  
 理事長 山田 雄 次  
 編集責任者 小 脇 勇  
 福岡県糟屋郡久山町大字  
 久原 1869  
 ☎(代) (092)976-2281  
 FAX (092)976-2172

## 『重症者ホームひさやま』に思うこと

保護者 又野 洋子

昨年の7月、共同生活援助事業所『重症者ホームひさやま』が開所しました。久山療育園重症児者医療療育センターに隣接し、前は田んぼ、2階の部屋からは夏の花火もよく見える、そんな静かな場所に10名の子ども達の新しい生活の場が出来ました。ホームには10名の個室とリビングルーム、浴室、キッチン等十分な広さの生活の場が用意され、子ども達もゆつくり過ごしているように思います。

長男貴志は5年8ヶ月お世話になりました久山療育園入所からホームに移りました。当初、生活の違いで戸惑いもあったかもしれませんが、すぐに新しい環境にも慣れたようです。入所時との大きな違いは、ホームは在宅支援ということだと思います。

一日の流れは、朝食後10時から生活介護に隣の在宅支援棟へ行き、日々の生活を楽しんで15時にホームに帰ります。それから、入浴は毎日です。入浴後は、自分の部屋でテレビを見たり、音楽を聴いたり、リビングルームでスタッフさんとお話をしたり、三々五々過ごします。

『重症者ホームひさやま』の安心は、先々ホームでの生活が難しくなってきた時、久山療育園の入所での生活に移して頂けるということ又、緊急時には久山療育園のサポートが受けら

れるなど、とても恵まれた環境です。とはいえ、それぞれ個性の違う子ども達です。一人一人の思いに沿った暮らしをとお世話していただいています。思いも違えば、要求も違いますが、上手く伝えられる子どももいれば難しい子どももいます。子ども達の目を見て、肩に手を回し触れ合いながら、笑顔で何とか聞き取るうとして下さるスタッフの方々の姿は、親でもなかなかできないことだと頭が下がる思いです。

開所の式典の際、管理者の渡辺医師から、ホームは家庭であり、みんなは家族です、とお話がありました。子ども達の周りに大きな輪が出来た思いです。毎日を見守り、支えて下さる責任者の山口さんはじめ、世話人さん、生活支援員さん達、日中活動の生活介護では保育士さん、療育員さん、看護師さんが日々楽しんで作ってくださいています。微力ですが、昨年の12月には保護者が中心となって「家族会」も発足しました。

久山療育園という重症児者施設に出会えたこと、入所も、通所も、グループホームもその大きな傘の下で過ごせる安心と幸せに心から感謝致します。

これからもどうぞ、子ども達を見守っていただきますようにと願うばかりです。

主張

2015年度、「在宅支援センター」の開設と「重症者ホームひさやま」の働きを省みて

理事長 山田 雄次

はじめに 2015年度は念願の「在宅支援センター」の開設の年でした。

2015年度の終わり、特に1976年の久山療育園開設の年から39年の歩みを経て開設40年の節目の年につながるこの一年を特別な感慨をもって振り返っています。

それは、久山療育園のこの一年が、50床でのスタートから短期入所の6床の枠を含め、全体で94床へとその規模を拡大し、入所者に対して行う医療療育事業の取り組みに加え、通所事業、短期入所事業、その他多岐にわたる在宅支援の取り組みを進め、今回更に「在宅支援センター」を開設し重症児者医療療育センター（以下久山療育園）の働きの拡充と強化の課題に向かってのチャレンジを行った二年となったからです。

ここに至るまでの39年間、久山療育園に直接・間接に関わりその働きを担い、いろいろな形で協働して下さった皆様にながら感謝を表したいと思えます。

新しい課題へのチャレンジ、特に「重症者ホームひさやま」の働きについて、在宅支援の強化のために開設

して設立された久山療育園として使命感を持って取り組むべき課題として認識しその実現を喜びました。

久山療育園のセンター的機能の強化をもたらす働きとしての開設「重症者ホームひさやま」の開設

された「在宅支援センター」は「在宅支援棟」とグループホーム「重症者ホームひさやま」の二つの事業部門から成り立っています。その中で「在宅支援棟」はこれまでの本体事業としての在宅支援強化の拠点としての位置づけであり、「重症者ホームひさやま」は別施設の新規事業としての位置づけのもと、共に新しい在宅支援の働きの推進のため使命を担って立てられています。再確認の意味でその働きを覚えておきたいと思えます。

今日障害児者福祉の理念は、ノーマライゼーションへの指向のもと脱施設、地域移行の流れにあり新しい施設（重症児者の場合久山療育園のような入所施設）の建設と増床は行われない上に、今ある重症児者施設におけるベッド数も将来削減の恐れがあるといわれています。そうした中で「重症者ホームひさやま」は、障害の重症化や親の高齢化などの理由で厳しい状況に置かれていた在宅重症者の新しい「受け皿」として在宅の保護者から強い関心と期待が寄せられ、入居募集と同時に多くの引き合いがあり早期に満床となりました。重症児者が社会の真ん中に位置づけられ重症児者と共生する福祉社会づくりを目指す

「重症者ホームひさやま」は本体としての久山療育園の西側にフェンスを挟んで隣接して建てられています。本館一階の地域交流ホールの前を廊下を渡り、「在宅支援棟」からエレベーターで階を降りると地続きのところにあり、数歩歩くと「重症者ホームひさやま」の入り口に着きます。本体事業の久山療育園との関係でいうと「重症者ホームひさやま」は久山療育園の敷地の外の隣接した地域に建てられた別施設（共同生活援助の入居施設）であり、それを重症者（障害程度5、6）のための「受け皿」として活用してゆくというもので、施設（センター）との連繋の形態としては新しいジャンルを開くものであり、少し自讃して言えば画期的な取り組みといえることが出来ると思えます。重症児者医療療育センターの立場から言えばそのセンター的機能の拡充をもたらすものと考えられるからです。

「重症者ホームひさやま」の開設に懸る課題と祈り 課題は10人規模での重症者の受け入れの場合でもグループホーム1年の会計の試算で1200万円程の赤字が生ずるという運営の厳しさであり、祈りは重症児者を受け入れるグループホームの開設が広く他の施設間にも広がり普及して欲しいという願いです。現在全国の重症者数は43,000人でそのうちの3分の1が施設での入所生活で他の3分の2が在宅生活で、その在宅支援が喫緊の課題とされ、通所事業短期入所事業等の在宅支援の強化が試みられています。それはそれで必要なことですが、それと共に10年、20年先の親の超高齢化や親亡き後の事態に備えられた本腰の対策が見える形で示されるのが今最も必要なことではないかと考えます。

悲しい事態が生ずることを案じています。私は長くキリスト教会の牧師をしてきましたが、ある時在宅の重症児家庭で起こった父子の無理心中に遭遇し、後日生前にその父親が「死ぬときは子どもと一緒に」ということを言っておられたということを知り、久山療育園の支援活動に参加するようになった経緯があります。入所施設の開設も増床も望めないということであれば入所と在宅の間で限りなく入所の必要が限界の状況にある「重症児者」のために新しい「受け皿」作りが今本当に必要とされているということになります。久山療育園のグループホームの運営に関しては、その赤字分は堅実な運営の努力と本体会計からの補填や寄附の呼びかけにより充当してゆかなければならぬといわなければならない大切なことは重症児者のいのちと暮らしを守るため財政支援に取り組みつつ制度の整備、改善を求めて行政に働きかけてゆくこと、そのためには当事者（保護者）と施設と支援者（市民）が一体的に協働して法律や福祉のしくみを変えてゆく運動を起さし、盛り上げてゆくことが大切だと思えます。テストケースともなる久山療育園でのグループホームの運営で課題のクリヤーがなされれば普及への道が開かれることにもつながる訳であり課題意識を持って40年の年に臨んでゆかなければと思いを新たに致しました。

制度・情勢  
**「久山療育園2016年度の事業計画」**  
 センター長 宮崎 信義

はじめに

久山療育園は1976年に創立され、今年40周年の節目に当たります。その間、世界の状況も日本社会や価値観も変化しました。医療福祉制度においては児童福祉法を基軸とした重症心身障害医療福祉制度も、成人では障害者総合支援法の適用により「児者分離」となり「重症心身障害施設」という名称もなくなりました。改訂された児童福祉法に「重症心身障害児」という名称が残るのみですが、重症心身障害児(者)（以下、重症児者と略）の存在の尊さや生命の尊厳、療育的視点が保たれることを願っています。

施設運営の要諦

―施設全体の重要課題

① 創立40周年に向けて・・・  
 2009年度に策定した「在宅支援プロジェクト」は、昨年7月に「在宅支援センター」（在宅支援棟及び重症者ホームひさやま）が開所致しましたが、いまだ途上です。地域療育部を中心として事業の強化と推進に努め、完成を目指して参りたいと願っています。また9月22日の第40回開園祭を創立40周年にふさわしい時として計画し、翌23日には第4回全国支援者会議を開催し、発題と多くの提言を頂き、これからの指標としたいと思えます。

2016年度の主題

聖書では40という数字は、出エジプトでモーセに率いられたイスラエルの民が自らの罪のためにカナン(約束の地)に入るのに40年を要した年限であり、またイエスキリストが荒野で試練を受けたのは40日間でした。当園が創立されて40年、創立理念や「重症児者と共に」という姿勢を自己吟味し、新たなビジョンを抱いて出発する時

はないかと思われました。

そのような視点で、年間主題は「創立40周年の新しいビジョン策定と理念にかなう医療福祉の継続」とし、開園祭テーマには「今、重症児者に必要とされる医療福祉の実践」とさせて頂きました。

障害者総合支援法施行後3年の見直しの注視

「障害者総合支援法が2013年に施行され3年間になろうとしています。法施行時に3年後の見直しが附記されていきました。その主な内容は、①「障害支援区分」の認定・支給決定ですが、療養介護サービス費の推移と障害福祉サービスの動向を注視していくことが必要です。②65歳に達した重症心身障害者では障害福祉サービスより介護保険法を優先的に適用する旨が公示されています

が、「生涯を通しての医療福祉サービス」という理想からは医療福祉サービスが削減されるリスクがあります。適用は自治体で異なるようですが、何歳になっても必要なサービスは維持されるべきだと思えます。

運営。(2)「在宅支援三本柱」の進展と小児医療の充足。「移行期医療」Ⅱ小児科医と内科医等との連携。(3)「児者一貫」及び療育施設としての姿勢の堅持と常勤小児科医の確保。

重症心身障害施設としての役割

「重症心身障害」に特化した医療福祉施設としての役割

を堅持することは、児者分離や療育的視点が失われていく傾向に抗して重症児者中心の姿勢を継続することです。全国重症心身障害児(者)を守る会で主張されている地域に根差した「いのちを守る最後の砦」としての入所機能を、実状を見ずに障害者の権利の侵害と見なしたり、社会保障の制限に繋がらないことが大切だと思っています。また同時に「在宅支援三本柱」(通所・短期入所・訪問)の確立は、地域の重症心身障害児(者)支援の中核となる働きです。

園内の事業の分担協力を円滑に

以上の久山療育園の使命として、①特に事務管理部門の整備と「在宅支援三本柱」を担う地域療育部の拡大深化、②職員の確保と育成。自施設や行政の要請に対応する「医療的ケア」研修、③研修活動及び研究活動と日常のスキル向上等が実現していくために園内の部署や職員個人間の協力が肝要です。

おわりに

園の向くべき方向性として、地域福祉・在宅支援への広がりや深化を担う在宅支援センターの運営と入所事業の向上

について入所及び通所の保護者会とコロナー友の会との協働が不可欠です。保護者会とは定期的に連絡会を持ち、行事への参加と協力を頂いていますが、これからの施設に望まれることを伝えて頂きたいと思えます。

コロナー友の会運動は、1969年11月にバプテストコロナー友の会が誕生し、1971年8月の第1回ワーカーキャンプ(荒尾市小岱山)、1972年2月12日にはバプテストコロナー友の会第1回街頭募金が始められました。当園にとっても「重症児者と共に」を合言葉として事業体を共に担う共同創業者と理解しています。これまでの40年の導きと歴史を背負い、新たな出発を「愛の手を」の読者の方々からも見守って頂ければ幸いです。



事務局長就任挨拶

久山療育園

重症児者医療療育センター

事務局長 梅木 光男



皆さんこんにちは。この度久山療育園の事務局長に就任した梅木光男です。

久山療育園が創立40周年を迎える本年2016年1月からその業務運営に関わることに不思議さと同時に神様の召しと励ましを感じています。

簡単に私の自己紹介を兼ねて抱負を述べさせていただきます。

私は大学卒業後当時の電電公社に入社することとなりました。それ以来北は札幌から南は長崎、熊本まで全国各地の転勤を重ねつつ、先輩や同僚等の支援や協力を得て無事定年を迎えました。

そこで悠々自適？の生活を送っていた時に、突然山田理事長から事務局長就任要請があり、何故私？という戸惑いと驚きを禁じえませんでした。実は久山療育園には2年前に「監事」として関わり、主として財務会計、業務執行状況などの監査業務を担当しました。私自身長く情報通信・金融サービス分野で仕事をしてきて、久山療育園のような医療療育・介護福祉といった分野は全くの素人です。ですので、いったい神様は私に何を？———という思いでした。

しかし、「神はご計画に従って召された者と共に働いて、万事を益となるようにして下さる」との御言葉に従い、すべては神様からの召命と思ひ受諾することとしました。

久山療育園を取り巻く環境は年々厳しくなっています。今後2025年問題として団塊の世代が後期高齢期を迎えることにより、社会保障費・医療費の増大が見込まれ、厚労省の方針も予算抑制・削減、地域連携を含めた「在宅化」へ大きく方針転換しようとしています。久山療育園としても創立当初の理念を堅持しつつ、時代の変化等

に柔軟に対応した業務運営を目指さなければなりません。そのためには久山療育園存立意義の原点を再確認して「利用者・職員・組織」の三位一体のバランスのとれた一致が必要で。まさに「蛇のように賢く、鳩のように素直」でありたいと思っています。私の名前のようにいろいろな課題等に直面して「うめき」つつ光の男として、利用者や職員の皆さんと共に神様から与えられた「生命の尊厳と大切さ」を見つめていきたいと思ひます。

冬の空を飛ぶ雁は逆V字編隊で飛ぶ習性があります。これは単独で飛ぶより7割の力で飛行でき、前方の雁が上昇気流起こすため後方の雁が少ない力で飛ぶことができるのです。そして疲れてくると前と後が入れ替わってその速度を維持できます。つまり一人の力では限界があり、2〜3人と仲間がいればトータルパワーが発揮できるのです。喜びも悲しみも共に分け合うことができる組織を目指し、明るく楽しく仕事にまい進していきたいと願っています。皆様のご支援と祈りを今後ともよろしくお願いいたします。



藤田 英彦

「ピラトは、それ以上言っても無駄なばかりか、かえって騒動が起ころうなのを見て、水を持って来させ、群衆の前で手を洗って言った。」

この人の血について、わたしには責任がない。お前たちの問題だ。」民はこぞって答えた。「その血の責任は、我々と子孫にある。」そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。」  
マタイによる福音書 27章 24〜26節

1月末には、沖縄に雪が降るなど寒波に見舞われ、今年には寒暖の差が激しくありました。2月に入って立春を迎え、庭の寒梅も蕾をほころばせ、白い花を凛と咲かせ、ようやく水温む頃となりました。

ました。3月には受難週・復活節を迎えます。この季節になると、ずっと昔、干隈に在った西南の神学寮の頃詠んだ俳句を思い出します。恥ずかしい愚作ですが、  
水温し  
ピラトのごとく  
手を洗う

受難週の朝、顔を洗おうとして洗面器に手を入れた瞬間、ああ、わたしの罪の贖いとしてのイエスを十字架につけながら、私には関係ない和白々として責任をとろうとしない自分の罪に愕然となり詠った句です。黒人霊歌に「あなたも見ていたのか、主が十字架に架けられるのを」という歌がありますが、その歌と同じ思いで、2千年前のイエス・キリストの十字架の贖いの出来事は、他ならぬ自分自身の事柄であるにも拘らず、「私には責任がない」として何も無かったかのように振る舞っている自分たちがあるのではないのでしょうか？

ご協力ありがとうございました

(2015年10月1日〜12月31日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

柏屋理容組合志免区、山崎工、福岡聖書キリスト教会、豊前キリスト教会、栗田昌直、主の十字架クリスチャンセンターのちの冠福岡教会、草場正子、手作り品売上、西南女学院同窓会福岡支部、青森バプテスト教会、女性会、門司港キリスト教会、天城山狂久山療育園献金箱、大秦野バプテスト教会 女性会、日本バプテスト大阪教会、美和台松区民生児童委員、来園者、木下由紀子、梅田淳子、阿部直子、日本バプテスト連盟宮崎キリスト教会、坂口道子、梅崎正広、梅木光男、安藤榮二、松崎義和、浜中保男、浜中美佐子、伴敦子、松岡庸子、日本バプテスト女性連合、波多野陽子、くずめよし、白垣充子、高松太田キリスト教会、秋永由美、(株)興拓代表取締役吉村拓美、堺太郎、福岡南キリスト教会、後藤敏雄、あゆみの家キリスト教会、中島乃婦子、大洲幼稚園、田中勲、山形南部教会婦人会、藤永嘉孝、第一保険(株)、(学)東京第一バプテスト学園こひつじ幼稚園、牧角雅子、西南女学院大学短期大学部附属シオン幼稚園保護者会、横溝玲子、五斗美代子、西南学院バ

プテスト教会、三上渡・有代、野口美由紀、粕屋バプテスト教会、高橋香代子、中原民子、安部聖子、水曜ボランティア、戸島栢子、草場美恵子、北島由香里、平川ヨシ子、城前和徳、西村久仁子、福岡バプテスト教会田宮宏介、清水谷宏恵、香月道子、山根めぐみ、阿部初美、齊藤里美、齊藤弘司、高地京子、大坪恒之、匿名、福田靖、福岡友の会、村上和美、益永紘子、(社福)シオンの丘愛の園こひつじ保育園保護者・職員一同、清星幼稚園保護者会、清星幼稚園、重松敏之、城里生英夫、銘茶かおり園、前田圭子、養巴幼稚園、福岡県立粕屋新光園福岡真二、大秦野バプテスト教会おやこひろば、加藤節子、的場チアキ、岡村直子、鎌倉ツヤ子、東京三育小学校、調眞琴・幸子、光の丘幼稚園、相模中央キリスト教会、折田泰彦、玉川勝己、伊東靖夫、東福岡幼稚園、日本バプテスト京都教会、嬉野キリスト教会、日本バプテスト春日原キリスト教会恵星幼稚園、(学)首里バプテスト学園 光の子幼稚園、岩本卓士、松本須美代、日本バプテスト東熊本キリスト教会、汀幼稚園、百合丘めぐみ幼稚園、(学)西南幼稚園、(学)西南幼稚園

母の会、木戸美沙、松本陽子、(学)信愛学園船寺幼稚園、直方バプテストキリスト教会、柳元京子、西南学院舞鶴幼稚園、日本バプテスト連盟大分キリスト教会、青山学院初等部、竹市志津、福岡中部教会婦人会、粕谷淳子、満園征子、高木美鈴、篠栗キリスト教会、防府バプテスト教会、坂元恵子、福岡市民クリスマス実行委員会、下山由美枝、関東学院中学校高等学校、諫早キリスト教会、ソフィア幼稚園、(学)大塚平安学園ドレーパー記念幼稚園、日本バプテスト鹿児島基督教会、学校法人弥生幼稚園、九州大学Y.M.C.A.、仙台バプテスト教会幼稚園、玉名ルーテル幼稚園、山田眞士、村津俊博、塩山善之、(学)若松神愛学園神愛幼稚園、日本バプテスト連盟四日市教会、中島乃婦子、日本バプテスト連盟日野神明キリスト教会、日本キリスト教会福岡城南教会、みつば幼児園、日本バプテスト連盟茗荷谷キリスト教会、二宮医院二宮紀郎、在日大韓博多教会、富野バプテスト教会、社会福祉法人バプテストめぐみ会北白川いずみ保育園、大鶴敬治、光の子幼稚園

建築献金

【施設会計】

一般献金

山田雄次、第39回開園祭来園者、井手伸昌、高野瀬竜彦、自動販売機売上献金、久山療育園献金箱、バプテストコロニー友の会(久山デイ)、池田和、山本佳代子、嘉久明子、大藪善次郎、藤原正憲、安藤榮雄、馬原哲治、秀島貴之、イイダセツコ、梅田淳子、後藤敏雄、加来徳子、井上正之、窄口正一、中根史子、因勲、宮崎信義、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所、鳥飼バプテスト教会、社会福祉法人キリスト者奉仕会理事長川野直人、福本幾男・順子、志満秀武・てい子、甲斐悦江、川野美恵子、梅木光男、田口和子、村上嘉彦、島本和明、吉本法生、柿木侶章、渡辺桂子、横山史子、讚井順子、久山療育園来久の会一同、渡辺浩行、藤城淳子、重症者ホームひさやま保護者会一同、奈良崎洋子、曾根崎加代子、岩下秀俊、小森孝子、井上清美、山口正夫、國分美知子、米工房・井上、安永智代、古川博子、田隈バプテスト教会付属光の園幼稚園、溝上敦子、中川憲次、中山裕子、栗山高子、柳池チエ子、矢野和美、田川賢二、ケアルートサービス(株)、香住ケ丘バプテスト教会ひかりキッズ、匿名

草場貴子、横溝玲子、瓜生美知子、松尾貴光、関西しののめ会、木戸美佐、松尾貴光、久山療育園保護者会、新藤佐知子・賢恵、安部田鈴香、井門正彦、山本三佳、澤田雅子、碓ミエ、逗子第一バプテスト教会、(株)フクエキ、村山均、平山照人、錦織純子、木元克治、中塚晴子、大高勝夫、野田和子、佐伯年子、平尾バプテスト教会子どもクリスマス、花原章二、吉見末男、宮内千鶴子、大原定行、田中三千男・由美、荻本光雄、大原信幸、平裕子、松尾勇一、矢津眞澄、田上洋子、山口久美・英明、草場正子、平野幸恵、岡本好枝、森永清治、矢山和平、野口恵、藤壽美子、安徳光代、福田妙子、松本修一、横山友美、相野君子、松藤守子、山本知加子、福島和子、西南学院大学汀寮、小副川時子、船附啓二、加藤由貴子、金井敏男・菊池孝子、愛生幼稚園、(学)西花畑学園松原こひつじ幼稚園、園忠枝、明治学院高等学校、鎌田陽子、厚木幼稚園、ナオミ愛児園、日本バプテスト鹿児島基督教会、金丸尚美、久保山信・敬子、栗山高子、ウェスレアン・ホーリネス教団福岡エルシオン教会、原田三容子、草場年子、草苑幼稚園

指定献金

福元孝三郎 (以上10,000,000円)
(以上10,000,000円)
(以上5,245,099円)
(以上625,652円)

献品

栗ヶ沢教会女性会介護品係り(タオル、エプロン、石鹸)、足立裕子(超音波アロマディフューザー)、嘉久明子(梨、柿、りんご)、大沼玲子(絵本)、新藤佐知子(往復はがき)、高橋由香(エプロン、タオル、枕カバー)、川崎バプテスト教会対外奉仕(エプロン)、サンエイワーク(靴)(クリスマスツリー)、防府バプテスト教会(タオル、中古バスタオル)、鈴木伸(ポインセチア)、二宮章年(ベビースケール、金柑)、高橋由香(エプロン)、那の津壽建築研究所(ポインセチア)、お針の会(エプロン、タオル)、長澤涼子(フードカッター、バスタオル)、古賀シズエ(衣類)、アイクオーク(ぬいぐるみ)、防府バプテスト教会(タオル、靴下)、因敷(みかん)、松尾建設(ポインセチア)、梅崎希美子(カレンダー)、福岡友の会(タオル、石鹸、エプロン)、久山療育園保護者会(靴下、バスタオル、タオル、敷きマット、バスタオル、アロマセット、鈴)、相模中央キリスト教会(エプロン、タオル)、西日本高速道路株式会社(カレンダー)、山崎製パン従業員組合福岡支部(ケーキ)、福岡丸本(株)(ケーキ)、西日本新聞民生事業団(ケーキ)、ロジテム九州(株)(ケーキ、くばらコーポレーション(株)(ケーキ)

(以上3,328円)  
**バプテストコロニー友の会**

7、9、10、12月分街頭募金

(以上215,163円)

**バプテストコロニー友の会扱い献金**

日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会、日本バプテスト女性連合、大村古賀島キリスト教会、福岡ベタニヤ村教会、平塚バプテスト教会、いずみ幼稚園、江波キリスト教会、赤塚バプテスト教会、福岡キリスト教会、飯塚バプテスト教会、井本義孝、江崎かず子、松本蟻ヶ崎キリスト教会、金沢キリスト教会、金沢めぐみ幼稚園、鯨バプテスト教会、日本バプテスト四日市教会、日野神明みぎわ伝道所、千葉バプテスト教会、匿名者

(以上511,286円)

**献金申込送金先**

社会福祉法人  
 バプテスト心身障害児(者)を守る会  
 〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869  
 久山療育園重症児者医療療育センター内  
 ☎(092) 976-2281(代)  
 《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】  
 《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普71888  
 個人、会社共に免税の対象になります。  
 メール: hisayama@mpd.biglobe.ne.jp

**支援者からの声**

第十五回

「主がお入り用なのです」

旭川東光キリスト教会牧師

松坂 克世



い。

わたしの隣人とは誰ですか、という律法の専門家の問いかけに、主イエスは「良いサマリヤ人のたとえ」を話されました。聖書を片手に道の向こう側を通った祭司やレビ人ではなく、サマリヤ人という異教徒であり先を急ぐ商人が、強盗に遭った人の隣人になったというたとえは、隣人になるという出来事が、自ら出かけて行くことや、否応無しにこちら側へ突入することに、どう応えるのかを問いかけるものです。

久山療育園では、入所・通所している利用者の方がたとのふれあいはこちらん、職員やボランティアの方がたのお話も聞くことができ、有意義な出会いと学びの時となりました。

その中でわたし自身も初めて足を踏み入れた共同生活の重症者ホームや在宅支援棟など、ますます充実した施設とこれからの園のあり方を示す新しい召命とその形に背筋を伸ばされ、職員のスキルやボランティアの働きの豊かさの広がりを感じました。

そもそも「このような施設は無い方がよい。家族と地域で暮らすことができる社会

を目指そう」という理念で始まった久山療育園ですが、未だ施設を運営せざるを得ない時代とその社会のあり方にわたしたちは何とも言えない敗北感すら感じてしまいます。しかし一方で久山の特異性、それは病院でありリハビリセンターであり、学校であり生活の場所であるという、その存在に逆にわたしたちの方が慰めや励ましを与えられるのも事実です。

エルサレム入城の際、主がお入り用なのです、と主イエスは子ロバを用いられました。誰も乗せたことのない、力も経験もない小さなロバで主を乗せたという経験がきつとこのロバのかけがえのなさとなり、平和のしるしとしてさらに用いられたのではないかと信じています。

久山療育園はこの子ロバです。主がお入り用なのですと信じて用いられ、その経験はかけがえのないもの、そして平和のしるしとして用いられる。イエスさまのために用いられるのです。これがわたしたちの喜びです。このために教会は喜んで献金をし、覚えて祈ります。

昨年夏「隣人に出会う旅―福岡の旅―」を担当しました。それまでほぼ一年に亘る準備を重ね、現地である久山療育園を中心に課題に向き合うことができました。参加した少年少女の感想はこちらが想像した以上のもので大変驚きました(詳細は連盟宣教部発行の報告集をご覧ください)

# リハビリテーション課の活動

## リハビリテーション課の近況報告

今回も、リハビリテーション課のお仕事についてご紹介させていただきます。

私たちは、作業療法士(OT)3名、理学療法士(PT)4名、言語聴覚士(S.T)1名の合計8名で業務を行っています。久山療育園は、以前はOTがリハビリ業務をすべて行っていました。数年前よりS.Tが入職し、続いてPTが入職し少しずつ専門性を高めながら日々の業務にあたっています。

リハビリの対象者さんは久山療育園に入所されている方、通所に通われている方、グループホームに入所されている方、外来、訪問リハビリ、他施設を利用されている方と多岐にわたります。年齢層も様々で1歳〜70歳代までと幅広く関わらせていただいています。人それぞれに目標は異なりますが、一人一人が心地よく、様々な方に支えられ楽しく生活ができるようにリハビリという形で関わることができたらと思っています。様々な方と関わることで、みなさん個性に満ち溢れていて、とても魅力的で、日々元気をもらって

います。

最近では、入所の方と一緒に活動の一環としてファッションショーを行いました。普段、身につけているものや雰囲気を感じながら、その方のできる姿勢や得意な事を発表したり、おしゃれをしたりしました。日常では見られない表情や、ドキドキワクワク感などがあり、新たな魅力が引き出されたのではないかと思います。自分で動くことや話すことが難しい方が多いですが、私たちと同じようにいろいろな感情があり、生きてきた環境があります。その感情や思いを形にすること、環境を整えること、身体を整えることで能力を最大限に引き出せるようにすることがリハビリテーションの役割なのではないかと思



「素敵なドレス姿で♪」



「楽しいファッションショー☆」

ます。また、リハビリスタッフ、病棟のスタッフ、ご家族とたくさんの方と協力して一つの物を作り上げることができた達成感や一体感を感じることができました。このような活動を通して何気ない日が特別な日になるように、一日一日を大切にしてください。皆さんの経験を共にしていきたいなと思います。これから初心を忘れずに知識や技術の研鑽に努めていきたいと思

理学療法士 浮橋

## 通所で頑張っています！

成吉 柁葵さん

成吉柁葵、12月生まれの19才。ちなみに4月生まれの春翔(ハルカ)16才、8月生まれの夏佑太(ナユタ)15才のお兄ちゃんです。我が家にはその下にも猫の夏那太(カナタ)5才、ルナ・冬羽(トワ)4才、みい3才がいます。忘れっぽくKYな母の元、心優しく、穏やかな性格で笑顔の素敵な男の子になりました。小さい頃からお世話になってる、久山療育園の皆さんのおかげ様だと思っています。



「柁葵です。よろしく！」

柁葵は、音楽(さんぽ♫)と甘いもの、身体を動かす事が大好きです。いつも忙しい家族の事をニコニコと見守ってくれています。今は3か所に通所していて、久山療育園では月曜日と水曜日に楽しく過ごさせてもらっています。昨年、福岡特別支援学校と一緒に卒業した浦慎之介君共々、どうぞ宜しくお願い申し上げます。イケメン2人なので見つけたら声を掛けて下さいね。(母 成吉ルミ)

# 通所の活動

## 通所クリスマス会

12月18日、通所クリスマス会が行われました。今年からはグループホームの仲間も加わり、45名の利用者さんとそのご家族、ボランティアの方々と一緒に賑やかにスタートしました。第一部の礼拝では薄暗い中、ペンライトの光に照らされながら、利用者さんは少し緊張した面持ちで理事長先生からのメッセージやお祈りに耳を傾けておられましたね。

第二部の祝会。今年のゲストは支援学校の先生方を中心に活動されているグループ「パレット」さん。

ステージは、たくさんの電飾イルミネーションで飾りつけられ幻想的にキラキラ光り輝く中、クリスマスソングや昔懐かしいヒット曲など元氣いっっぱいの歌声に皆さんノリノリ♪保護者の方からは「○○先生〜！」と歓声も上がって会場は一つになり、コンサートは大いに盛り上がりました。

コンサートの後は楽しい食事の時間です。クリスマスメニューの色鮮やかなお食事やケーキにお母様方の会話も弾み、利用者さんも美味しそうにパクパク食べておられました。そして今年は食事中にスタッフからのサプライズプレゼント☆

愉快的なサンタやトナカイたちによるピアノ演奏&パフォーマンズにあたたかい声援や拍手が送られ、利用者

さんもプレゼントをもらってニコニコ！  
皆さんの笑顔あふれる楽しいクリスマスとなりました。  
(通所介護福祉士 安河内)



「クリスマス楽しかったね」



「パレットさんの素敵な演奏」

## 外来 療育 宇 宙

### 「書初めをしたよ」

今日は年が明けて2回目の活動で、みんなで書初めを行いました。外は寒く、宇宙に集まった子どもたちは手足がひんやり。お部屋はポカポカあったかいので、皆とても嬉しそう。どうぶつ体操で手足をしっかりと動かして少しずつ体温も温まってきました。

今回の書初めは一人一人がしっかりといすに座り、目線が前を向くように心掛け、姿勢にも気を付けていきました。椅子に座ることでいつも抱っこされているお母さんも、色々な角度から様子を見ることが出来ました。まずは卵パックのパレットに自分が好きな色を何色か出してみました。そして子どもたちがしっかりと筆を握れるようにお母さん達が手を添えて、いざ半紙に筆入れ。書初めは子どもたちの姿母の願いなど愛情あふれる文字が描かれました。ぐつぐつと眠ってしまったT君のお母さんはT君の足裏に絵の具を塗り、力強く半紙に「べったん」とスタンプされていました。これもまた母の愛情の一場面でした。

書初めの後は卵パックの絵の具の中にビー玉を入れ、色のついたビー玉を箱の中で左右に動かし、模様あそびをしました。転がるたびに画用紙に色が付き、いつの間にか素敵な作品へと変身していきました。子どもたちはビー玉の転がる音や動きに興味深々でした。

どうか書初めの願いが叶いますように〜！そして今年一年も明るく素敵な年となりますように。  
(通所保育士 汐田)



「ねむたいよお」



「きんちょうするう〜」

# 通所成人式

## 『陵ちゃん、成人おめでとう』

十歳までは、どんな大人になるのだろうかと沢山の夢や希望を抱きながら、そのことが当たり前だと思っただけで毎日過ぎていきました。人見知りをしていない子どもだったので、友達のお母さん、近所の方々からもとてもよく可愛がってもらいました。只々、走り回るだけで楽しくて、にこにこ笑顔が可愛くて、口をぽかんと開けて眠るとその寝顔も可愛くて（今も寝顔は変わりませんが…）車の運転中だった私は、車を路肩に停めて、その寝顔にずっと見とれていたこともあり、幼稚園の頃から続けたスイミング、音読が得意で毎日教科書を読んでいた。「くまさん」の詩は今でも陵の声で思い出します。妹のことをとても可愛がってくれる心優しいお兄ちゃんでした。幼い二人の写真の中には、ほっぺを寄せ合っている仲良しショットが何枚もあります。

確定診断は、十歳の時、体調を崩すことが多いなどは感じてはいましたが、まさかその根底にこのような難病が潜

んでいたとは夢にも思いませんでした。今まで出来ていた事が少しずつ出来なくなっていく、その時の陵の不安や戸惑いはどれ程だったか計り知れません。私はもう二度と心から笑える日は来ないとさえ思っていました。その後、約半年間の入院、治療を受けましたが、病気は進行し、車いすを使うようになり、特別支援学校への転籍、幼い時には想像もしなかった道を歩くことになりました。でもこの病気で最も大切なことを学ぶことが出来ました。それは、「命」。一緒に治療を頑張ってきたお友達、同級生のお友達、沢山の出会いがあり、哀しい別れがありました。生きることは、とても尊いものだということを教えられるました。そしてもう一つ、「人は一人では生きていけない」ということ。難病の診断に沈む私を心で支えてくれた友人たち、子どもたちに寄り添うお母さん方との繋がり、支援学校の先生方、看護師さんやヘルパーさん、多くの方々に支えられて今日と

いう日を迎えられるのだと実感しています。

与えられた命を大切に、そして周りの方々に感謝の気持ちを持って、これからも前を向いて笑顔で生きていきたいと思えます。

柏谷陵さんのお母様



「袴がきまつてるう〜」



「成人おめでとうございます！」

## 「出会いに感謝」

真奈は我が家の三番目の子として生まれてきました。お兄ちゃんが二人いるので、女の子が生まれて思わず「やったね」と喜びました。けれども生後三週間たった頃、嘔吐と痙攣があり、病院に連れて行つたときにはすでに、重篤な状態で、正直何が起きたのかわからず目の前が真っ暗になりました。髄膜炎と言う病気もその時初めて知りました。

真奈が入院することになり、里帰り出産だった為、急遽4歳のお兄ちゃんを実家の近くの幼稚園へ通わせることにしました。その時の先生が愛情いっぱいにお兄ちゃんと接してくれて私の支えになりました。また、同居する兄嫁が「大丈夫よ」とずっと励ましてくれました。あの言葉がなければ、あの頃の私は前向きになれなかったと思います。

退院して名古屋に戻り、お兄ちゃんたちもいたので、無我夢中の子育てでし

た。真奈が一才を過ぎた春に福岡へ転勤になりました。通園や通学、通所を通して出会えた方々に励まされ勇気ももらい支えられました。一才の頃はご飯が上手に食べられなかったのですが、訓練の先生や保育士さんたちのおかげで食べられるようになりました。たくさんの方とお話をすることが大きな力となりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

成人式にはたくさんの方に「おめでとう」と声を掛けられ、とても嬉しく思いました。これからも、真奈が元気に楽しく過ごせるよう願います。そして、これからも親子共々よろしくお願致します。

松田真奈さんのお母様



「綺麗な振り袖姿で♪」

# めぐみ棟の活動!!!

## 「クリスマス会」

12月15日、今日は入所者さんのクリスマス会。

朝から皆さんワクワク、ドキドキ!!療育園も少し前からキラキラのクリスマスツリーや、クリスマスの飾りがたくさん!!それだけでウキウキします。

交流ホールにたくさんの方が集まっています。クリスマス会が始まると、今年度新しく入所された利用者さんによるキャンドルサービスが始まり、あつという間にキャンドルの光の温かい色に交流ホールが包まれました。

クリスマスのお話の朗読が始まるとみなさん真剣に聞いています。その後も綺麗な音色の楽しい楽器演奏が始まり、皆さん楽しく歌をうたっています。皆さん笑顔で一杯!!

そして、今年もおいしいケーキをヤマザキ製パンの従業員の皆さんからプレゼントして頂きました。今年もとってもおいしいそうなケーキがたくさん!!更に会場が盛り上がりです。

それから、一番のメインイベント!!サンタさんからのプレゼントには皆さん大興奮!!今年もたくさんプレゼントありがとうございました!!皆さん最後まで



「わーい♪」



「サンタさんありがとう!」

ずっと笑顔で過ごしていました。病棟に戻ると、ご家族とおいしいクリスマスランチにケーキを食べ、大きいスクリーンでDVDも見ました。

笑顔溢れる1日を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。  
(めぐみ棟看護師 國崎)

## 「♪雪だるまつくーろー♪」

1月25日、久山町にもたくさん雪が降り、久山療育園は真っ白な銀世界になりました!!

夜の間からたくさん雪が降っていたので、朝起きるのがとっても楽しみでした。職員の方が「お外が真っ白ですよー!!」と言ったので、デイルームから園庭を見てみると…  
本当に外は真っ白!!  
いつもと全く違う風景に驚きました。

お昼にお布団をたくさん来て、園庭に出てみました。

真っ白でキラキラしていて、いつもよりシーンと静かだったので不思議に思いました。

職員の方が作った雪だるまの兄弟をお部屋の中からみんなで見ました。

また大きな雪だるまを作ってみなで遊びたいなー!!

(めぐみ棟保育士 葛島)



「ゆきだるま兄弟」



「できました!」

# ひかり棟の活動

## 花より団子 (藤國臣さん・渡辺幹男さん)

少し肌寒い雨模様でしたが、スタッフ3名と、香椎イオンモールへ癒しを求めて出発。

國臣さん・幹男さんも車の揺れにリラックスしウトウト。

しかし本番はこれから、ふかふかな椅子に座りリクライニングを倒し、良い香りのするオイルを選び膝から下のマッサージ。國臣さんは終始ご満悦、幹男さんは体に掛けてくれていた肌触りの良い掛物が気になりながらもマッサージ終了。

そしてお食事タイム色々な美味しい匂いの中からハンバーグとお好み焼きをチョイスし2人で半分、あつという間にペロリ、次はデザート今日は11月25日一ヶ月早いクリスマスケーキ、ハーフトのチョコケーキと苺ののったチーズケーキこれも2人で半分。

イオンを散策し、帰りの時間となり、クリスマスツリーの前で記念撮影後、久山へ。帰りはお腹いっぱい

スヤスヤ、マッサージでも癒されたけど、おいしい物食べてお腹一杯食べるのが良いかな：花より団子の男子のプチ贅沢の一日でした。(ひかり棟看護師 山野)



「クリスマス気分」



「ドッキドキ」

## かきぞめ (新年の抱負)

二〇一六年一月一日、ひかり棟で、新年初の活動「書初め大会」が開催されました。

利用者さんは、それぞれの思い・願いを込め筆を握ります(スタッフが優しく手を添えて・・・)。

骨折を経験したSさんは「骨強化」、嵐の大ファンUさんは「嵐に会う」、ホークスファンのYさんは「熱男」、低体温のTさんは「温」、これはスタッフの願いでもあります。いたずら大好きSさんは、更なるパワーアップを目指し「いたずら」、食いしん坊のMさんは「喰う」、ちょっと怖いですね☆その他「健康」「いっぱい歩く」「姿勢」「動く」「さる」「無遅刻・無欠席」等々・・・。

スタッフの切なる願い、食事中にお皿やスプーンを投げてしまう利用者さんに「禁・投」(これ金星、でも本心は「遠投」「柵越え」かな?)、日中ウトウトする利用者さんに「覚醒」、動きが激しく騒ぐの大好きな利用者さんに「静」・・・言葉を考えてスタッフには脱帽です☆利用者さん、スタッフ、代わる代わるに筆を執り、「書初め」を堪能しました。年末年始に帰省できなかった利用者さん、一月一日に初出勤したスタッフ共々に、賑やかで楽しいお正月を迎えることが出来ました。素敵な作品は、

しばらくひかり棟内に掲示していただきます。是非是非、鑑賞においでください。二〇一六年が、利用者さんご家族・久山を支えて下さる全ての方々、スタッフにとりまして、笑顔の絶えない、しあわせな一年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。(ひかり棟介護福祉士 金子)



「むつかしいなあ」



「あ・つ・お」

## 重症者ホームひさやまだより

### ホーム半年を振り返って

施設長 渡辺浩行

2015年7月、在宅支援プロジェクトの成果として、在宅支援センターと福祉施設（共同生活援助事業）重症者ホームひさやまが開設されました。久山療育園から6名、在宅から4名の入居者が真新しいホームに暮らすようになり、半年余が過ぎたこととなります。

従来の医療型入所施設と異なり、家族や社会とのつながりを大事にし、個性ある利用者の人生が実現できる場所を目指すことが開設の願いでしたが、果たして新しい施設のテイク・オフはどうだったのでしょうか。

#### 『医療的サポート』

ホームに入居される方々は、内服など継続的な医療を受けています。薬を飲んでいても発作を起こすこともあれば、薬の副作用や、誤嚥や腸閉塞など、重症心身障害に起こりやすい合併症の管理などが必要です。そこで、毎朝久山療育園から看護師が健康チェックに訪問し、バイタルサインの測定、吸入薬の処置などを行い、その日の日中活動が出

来るかどうか、健康上の注意や受診・医療の必要性があるかどうかなどを判断しています。実際、半年間で数回程度ですが、久山療育園の医師の診察や投薬を受け、大事に至らず、概ね順調に経過しています。健康診断なども定期的に行っていきませんが、高齢化や、集団生活の中での感染症、思わぬ怪我や発病などこれから様々な事態が予想される中で、さらに見守りを続けていかなければいけません。

#### 『日々の生活』

平日の日中は、久山療育園の通所を利用し、他の利用者の方々と交流しつつ療育やリハビリを受けられています。現在4名の方が3か所の久山療育園以外の生活介護事業所を利用してはいますが、今後も徐々に増えていくものと考えています。利用者の交流の場が増え、いろいろな刺激が増えることは、きっと人生を豊かにしてくれるでしょう。

個別支援計画は、一人ひとりと検討され、ご本人の意思を尊重してたてられます。

ホームにいる時は、ロビーで皆とテレビを見たり音楽を聴いたりして楽しむ方もいれば、自分の部屋で、お気に入りの調度品に囲まれ、ゆっくりされている方もいます。お互い理解し合うのは、時間がかかるかもしれませんが、決して無理なことではありません。開所半年が過ぎた今、もう一度最初に戻って、利用者の安心や満足を考え直していきたいと思っています。

在宅支援プロジェクトの発端には、重症児者を持つ保護者の方々の切実な思いや現実が大きく関わっていました。また制度としても、グループホームとして重症児者に携わっていくことは大きな注目を集めてきています。より良い形は未だ探求途上です。今後とも、皆さんの温かいご支援やご指導をよろしくお願いいたします。



### 重症者ホーム 半年を振り返って

早いもので重症者ホームひさやまが開所して半年が経ちました。手探りの状態から始まり、保護者の皆様と関係者の方々のご協力の下、ここまで形にする事ができました。私たちスタッフも新しい環境に不慣れなことから、入居者の皆さまにはたくさん御迷惑をお掛けしたと思います。しかし、どんな時でも笑顔いっぱい、スタッフを癒してくださり、『ありがとうございます』と、感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな中、昨年はたくさん行事や活動を実施する事ができました。ホームが開所してすぐの夏には、地域の盆踊り大会に参加しました。そして流し素麺&花火大会、それから余暇時間を使つてのスイカ割り等、夏を感じる事が出来る行事を実施する事ができました。秋には、近隣の生活支援事業所の主催する秋祭りにもおじゃましました。9月には放生会にも行くことが出来、また十五夜の日にはみんなで屋上に上がりお月見を楽しむ事もできました。夏とはまた違った季節感を味わう事が出来たと思いま

す。私たちスタッフにも良い刺激となりました。そして冬にはホームでクリスマスパーティーを開きました。いつもの食事とは違ったクリスマスディナーをみんなで作って食べました。お正月には多くの方が帰省され、それぞれ楽しいお正月を過ごされました。ホームで年を越した方たちは、お鍋を食べたり、紅白歌合戦を観たりして楽しみました。二日には初詣に箱崎宮へ出かける事もできました。

手探り状態での行事や活動で、ご家族の方々にはご迷惑もお掛けしたと思いますが、快く参加していただき感謝しています。この半年間はとても濃い半年だった様に感じます。私たちスタッフも入居者の方とたくさん楽しい時間を共有する事が出来て、とても嬉しく思っています。

新年度も、重症者ホームひさやま一丸となって、笑顔でいっばいの一年間にしていきたいと思えます。今後も重症者ホームひさやまをよろしく願います。

(重症者ホーム介護福祉士 新木)

# 献品のお礼

## 毎年楽しみなクリスマスケーキの贈り物

クリスマスに久山療育園は、多くの企業や支援者の方々から善意のプレゼントをいただきます。

その中の一つがクリスマスケーキです。利用者の皆さんが母さんたちと一緒に楽しめる、とっても素敵なおいしいプレゼントです。久山療育園では支援者の方々を招いての園のクリスマスをはじめとして、入所のクリスマス、通所のクリスマスといった行事に合わせてみんなで楽しんでいきます。

入所のクリスマスや通所のクリスマスでは、今年もお母さんたちと一緒に楽しいクリスマスランチと、皆さんに頂いたおいしいケーキをいただきました。みんなの笑顔があふれるひと時でした。ありがとうございました。

(看護部長 吉本)

今年クリスマスケーキを寄贈してくださった企業(敬称略・五十音順)

株式会社ロジテム九州

久原醤油

西日本新聞民生事業団

福岡丸本株式会社

ヤマザキ製パン従業員組合福岡支部



「素敵な X'mas になりました」



「ロジテム九州のサンタさん、ありがとう」

## 「福岡YMCAからタオルとバスタオル 1,100枚を頂きました」

この度、「公益社団法人 福岡YMCA(福岡市城南区七隈1-1-10 向谷彰総主事)」より、「久山療育園の利用者の方の為に使い下さい」との申し出を受けて、タイトルにあるように大量のタオルとバスタオルを頂きました。

これは私たちの地域でも馴染みの深い「ロストコ(Costo Wholesale Corporation)」の社会貢献事業により、新品の業務用ハンドタオルとバスタオルが全国のYMCAへ寄贈されたもので、そこからお声掛けを頂いたものでした。

早速、園内の需要を確認し療育指導室の島津主任と共に、1月7日に受領にかけました。福岡YMCA内の保管場所に到着、品質の高さやうかがわせる新品のタオルとバスタオルをスタッフと共に積み込むと、リフト車輛の荷室一杯となりました。

これらは今後、久山療育園の利用者の方々の様々な生活の場面で役に立つと思われまます。

教育と医療福祉という分野の違いはあるものの、同じキリスト教理念を持つ社会団体として、大きな感謝と協働の喜びを感じながら、献品を園へ持ち帰りました。

(法人事務局庶務課長 馬原)



「協力してタオルを積み込みました」



「YMCA奥村副総主事と島津主任」

### 職員の異動

(2015/11/15-2016/1/31)

#### 【退職】

▽井上 彰子(介護福祉士)11/30付

▽田村 未希(准看護師)11/30付

▽濱田 桂子(看護師)1/31付

#### 【採用】

▽貴島 朋子(保育士)11/10付

▽山口 彩子(介護福祉士)12/8付

バプテストコロニー友の会「かべしんぶん」

在宅支援の働きを支える

ミニ・チャリティーコンサート

バプテストコロニー友の会では、昨年7月に開所した在宅支援センターの働きを支えることを重点課題に掲げ、今年度はこの働きを支えるために、11月に三回にわたるミニ・チャリティーコンサートをを行いました。

久山療育園の医師であり、重症者ホームひさやまの施設長でもある渡辺浩行先生が申し出てくださり、先生の所属する「アンサンブル・カプリチオーゾ」の皆さんによる演奏を、三会場にて実施致しました。

一回目は11月7日に福岡西部教会、二回目は17日に東福岡教会、三回目は最終公演は26日に福岡教会と、それぞれ会場を移して行われました。会場のサイズが大きくなるのと平行して、来場者も回を重ねる毎に増えていき、たくさんの方々に来て頂き、その演奏を共に楽しむことが出来ました。今回は、色んな日程・会場で、広く演奏を楽しんで頂き、久山療育園の働きをさらに憶えて頂きたいとの願いをもっておりましたが、こうした形でその思いが実現することが出来たことは嬉しいことでした。

演奏会の冒頭には、久山療育園の歴史と、今回開所した在宅支援センターにおける在宅支援棟と重症者ホームひさやまの働きを紹介するビデオを上映し、開園40周年を前に、新たな取り組みをはじめている久山療育園の働きを心に留めることが出来ました。

演奏会では、コンサートテナと呼ばれるアコーディオンや、チェロのようなヴィオラ・ダ・ガンバと呼ばれる楽器などの古楽器を中心に、ケルト音楽やバロック、さらにはポピュラーミュージックに至るまで、決して退屈させないクオリティの高い演奏を満喫し、その音色に聞き入ることが出来ました。休憩時間には、こうした珍しい楽器を間近に見る機会もあり、来場者は演奏だけでなく、そうした普段目にする機会のない楽器に触れる事でも、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

会場教会の皆さまをはじめ、福岡地区にある教会ではチケット販売などで多大なご協力をいただき、当日券を含めて18万円

ものチケットを売り上げ、経費を除いて113,258円を収益として久山療育園に献金することが出来ました。

コロニー友の会では今後とも、久山療育園を背後から支えつつ、重症児者とその家族が安心して豊かに生きていくことの出来る社会を目指して活動していきたいと考えています。今後とも友の会の働きにもご理解とご協力をお願いします。

福岡西部教会牧師  
コロニー友の会運営委員  
松藤 一作



「会場の様子」

出演者「アンサンブル・カプリチオーゾ」からの感想

私たちグループの名前にある「カプリチオーゾ (Capriccioso)」というのは、音楽用語で「気まぐれ」という意味です。一定の形式に束縛されない自由で気まぐれな楽曲を「カプリチオーゾ (奇想曲)」と言ったりします。音楽を、ジャンルや形式に囚われずに楽しみたいと願い、グループの名前に用いました。

特に自分たちで演奏することに喜びを感じるアマチュアの音楽愛好家にとって、この喜びを聴いてくれる方と共有できるのは、とても嬉しいことです。ですから、今回のようなチャリティーコンサートのお話をいただき、会場の準備やDVDによるご紹介などいただいた、とても感謝しています。

久山療育園でも、音楽療法をはじめ、行事や療育の場で多くの音楽が使われています。音楽好きな利用者の方も沢山います。楽器の歴史は古く、3万年とも4万年とも前から骨の笛が存在したといわれます。音楽は、太古より人とともにあり、気持ちを表したり、伝えたりするのにとても役立っていたのだでしょう。音色、メロディー、リズムの作り出す音楽の力や魅力を、少し

でも沢山共有してもらえらるるに、まずは自分たちが好きな音楽を選び、自分たちが感動すること、そして感動を伝えられるように研鑽することが大切だと思ひ、活動してまいりました。今宵、音楽の喜びを共に感じてもらえたら、それに勝るものはありません。

アンサンブル・カプリチオーゾ  
久山療育園重症児者医療療育センター診療部長  
渡辺浩行



「アンサンブル・カプリチオーゾ」

祈りが叶ったクリスマス・年末特別街頭募金

平常の場合もそうですが、クリスマス・年末街頭募金の際には特別に祈って街頭募金に臨みます。何を祈るかといえば久山療育園へのよき支援となるよう成功を祈ります。

具体的には①天候のため(雪や雨が降りませんように)、寒くなりませんように)②他の団体と鉢合わせしないように③たくさんの方の奉仕者が参加してくれま

すように、また可愛い子供が参加してくれまますように。3つ全部がうまくゆくと募金高が上がります。3つの祈りが揃った時1日で20万円の募金が出来たとがあります。

今年寒い日があり、また雨の日(23日)が1日あり、最高の募金とはなりませんでしたが、昨年より9千円多い364,000円の募金となりました。

久山療育園への友の会献金の中でチャリティーコンサート献金と年末街頭募金が多くを占め、力を注ぎます。参加人数も昨年より少し多い128名(1回平均21名)でした。職員の方、保護者の方、そして家族の子供たち、皆さんの協力を心から感謝します。



2015年コロニー友の会年末特別街頭募金報告

Table with 5 columns: 回数 (No.), 時 (Time), 参加人数 (Participants), 募金額 (Amount), 備考 (Remarks). It lists daily fundraising activities from Dec 19 to Dec 26, including a note about a rain day on Dec 23 and a total amount of ¥364,000 for 2015 compared to ¥355,000 for the previous year.

メモ帳

- A vertical list of activities and events organized by month: 【10月】 (Oct) includes events like 東久原運動会 and 久山療育園利用者3名・重症者ホーム入居者1名; 【11月】 (Nov) includes 私立病院協会実習 and 福岡第一ライオンズクラブ支援金贈呈式; 【12月】 (Dec) includes 福岡市市民生委員見学 and 久山療育園利用者3名・重症者ホーム入居者5名.

コロニー友の会運営委員一同

# ボランティアだより

## ボランティア紹介 若林喜紗恵さん



若林喜紗恵さん

今回は、毎週水曜日に行っている若林喜紗恵さんをご紹介します。もともとはご家族のすすめで来られるようになったのですが、週一回のペースをきっちり守られながら、まる二年が経とうとしています。若林さんは主にボランティア室でのたまたまの作業で活躍されています。作業中、ボランティアさん同士のやりとりがとても楽しいとおっしゃいます。それぞれのお家での話や世間話など、笑いが絶えない時間があったという間に過ぎていきます。

また、水曜日は病棟や通所の利用者さんがボランティア室と一緒にオシボリたみをする日でもあります。そこでの交流も大事な時間になっています。障害者の方と接するのは久山療育園に来られてからが初めてであり、最初は慣れず、ただ利用者さんの生活が「大変だろうな...」と思うにとどまるところでした

が、時間が経つにつれてコミュニケーションがとれるようになってこられて、ニコッと笑顔を交わせることも多くなってきました。そういう時は、言葉をお交わしての話はできないが「分かり合えている」と思えてボランティアに来て良かったな、と感じられます。時にはたまたま方に関して利用者さんから指導を受けることもあるらしく「そういう関係性がとてもいい」とも話されます。

お歳の話をして失礼なのですが、若林さんは現在八十二歳でいらっしやいます。学生時代は片道一時間半の道のりを徒歩で通っていたり、泳ぐことが得意だったりと、当時から鍛錬で体力には自信がある、と話される若林さん。お言葉通りとてもお元気で、お医者さんからも「どこも悪いところがなく全く問題がなくて」と太鼓判をもらっておられます。今回のインタビューも終始快活にお話し頂きました。

特別な抱負はないが今後このペースで頑張りたい、と語って頂いた若林さん。これからもよろしくお願ひします。

(相談支援主任 山田)

## 2016年度 行事予定

### 〈入所〉

日程	行事	日程	行事
4月 4日(月)	イースター	10月 7日(金)	誕生会
22日(金)	誕生会	22日(土)	秋祭り
5月 21日(土)	運動会	11月 25日(金)	誕生会
27日(金)	誕生会	12月 2日(金)	誕生会
6月 24日(金)	誕生会	13日(火)	入園者クリスマス
7月 7日(木)	七夕	1月 17日(火)	成人式
22日(金)	誕生会	27日(金)	誕生会
8月 26日(金)	誕生会	2月 3日(金)	節分
9月 2日(金)	誕生会	24日(金)	誕生会
14日(水)	敬老の集い	3月 3日(金)	ひな祭り
22日(木)	開園祭	17日(金)	誕生会

### 〈通所〉

- 4月 1日(金) 始園式(保護者懇談会)
  - 5月21日(土) 運動会
  - 6月30日(木) 夏祭り
  - 9月22日(木) 開園祭
  - 12月16日(金) 通所クリスマス
  - 1月 5日(木) もちつき
  - 1月24日(火) 成人式
- 園外活動を予定(1回/年)場所、日程は未定



### ☆余暇活動 (毎月1回 予定)

- ・音楽会(手話ダンス・いろいろな楽器演奏 ・アートムジカ・フラダンス など)
- ・お話し会(お話し会・紙芝居・人形劇 など)

### ☆喫茶活動 年間9回 (4月 5月 6月 7月 8月 11月 1月 2月 3月)

### ☆園外活動

小グループでいろいろな場所に行き、さまざまな体験をする機会をもちます。

### 歩行器



#### ◆新しい人事のお知らせ

12月から1月にかけてのビッグニュースは、1月から事務部長兼任の事務局長として梅木光男氏(前久山療育園監事)が就任され、梅木光男氏に代わって中村晴光氏が監事に就任されたということ。梅木光男氏は筑紫野南教会、中村晴光氏は西南学院教会のメンバーで、それぞれ職務能力を十分に備えられた方々であり、よき働きが期待されています。

#### ◆大寒波にも負けない!

1月24日(日)〜25日(月)の両日、10年振りの大寒波に見舞われました。積雪と道路凍結による交通の混乱により、センターの勤務に支障が生じることが心配されましたが、交通の混乱(自動車による出勤不能)を予測し、勤務の職員は前日より泊り込んで、入所利用者のいのちを守るための職務の遂行をなし、遺漏がないよう頑張っておりました。皆さん、ありがとうございます。ごくろうさまでした。

(Y.Y)